

# 阿武隈川 環境等概要

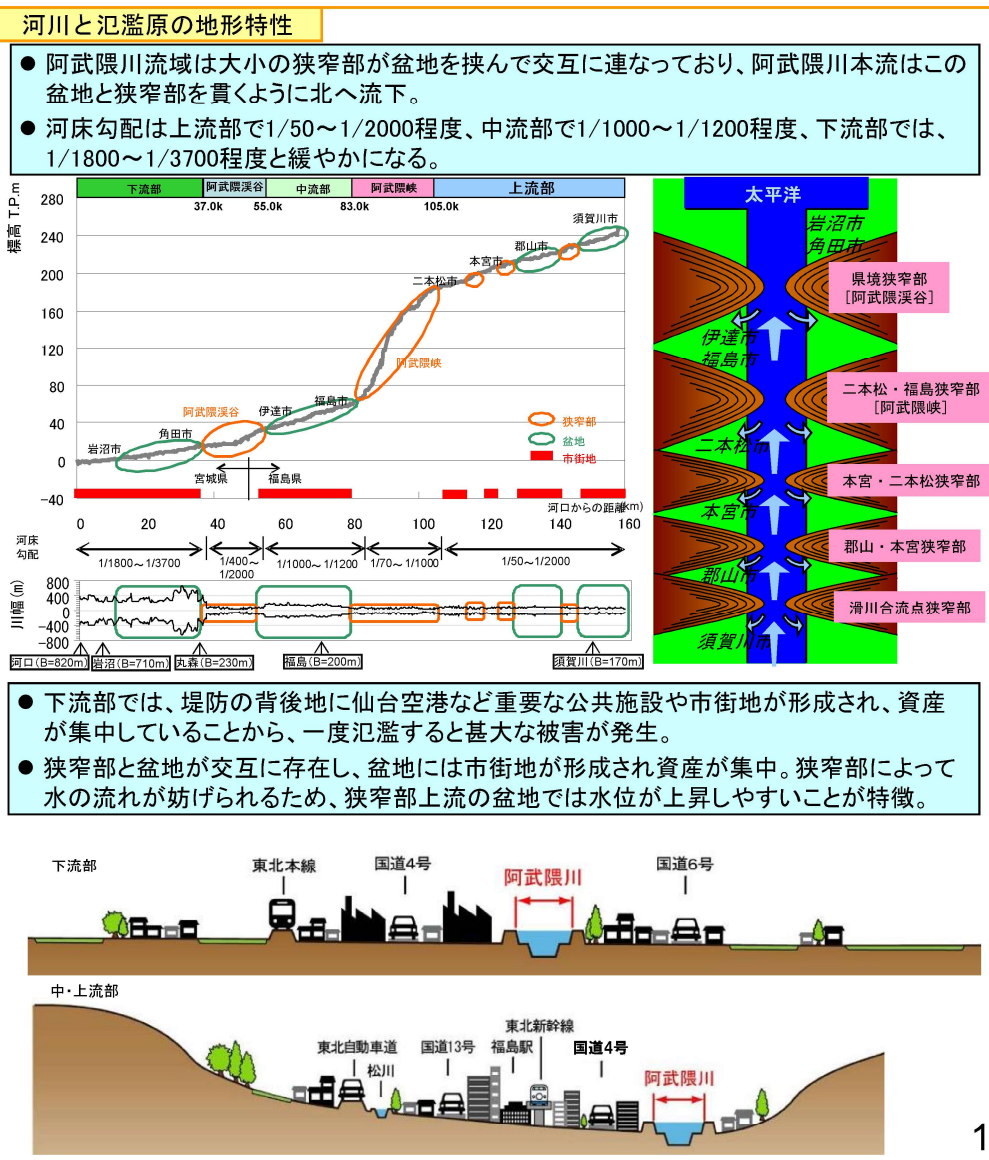
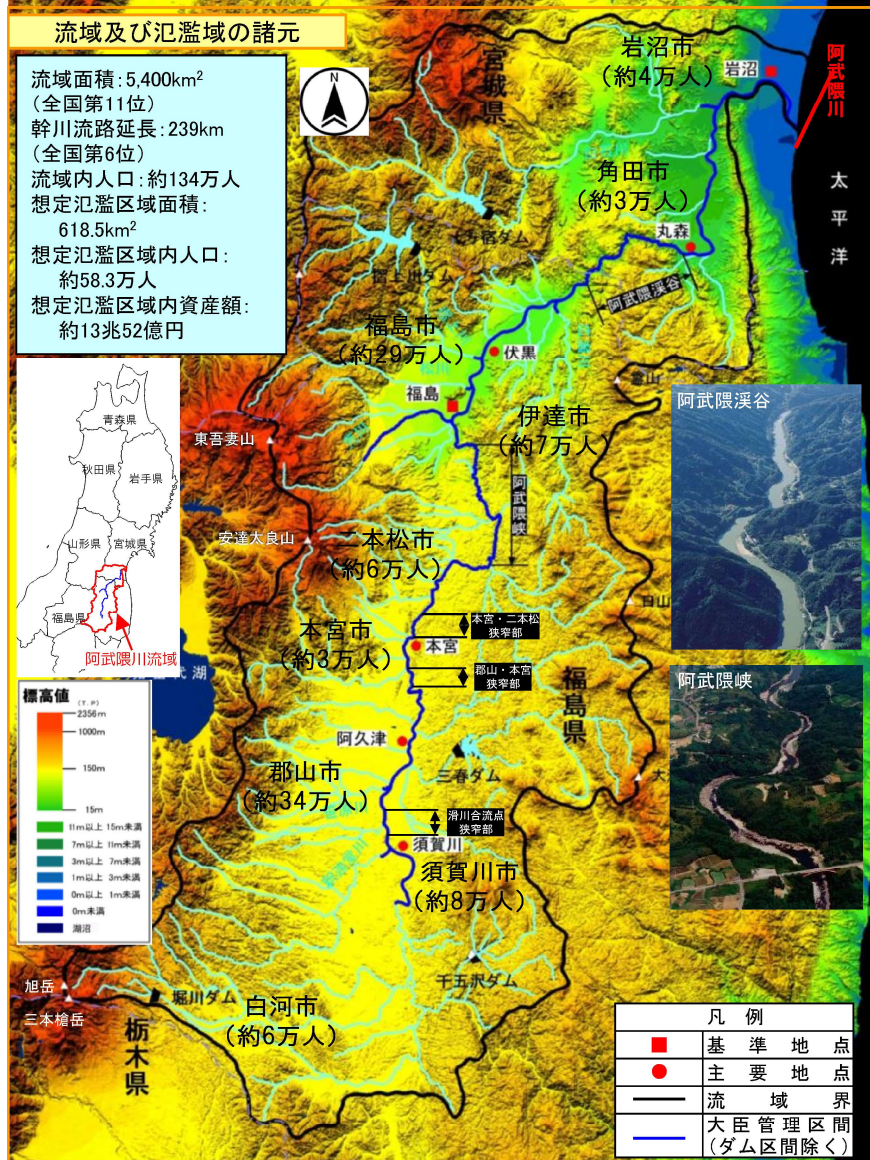
---

福島河川国道事務所

# 流域及び河川の概要

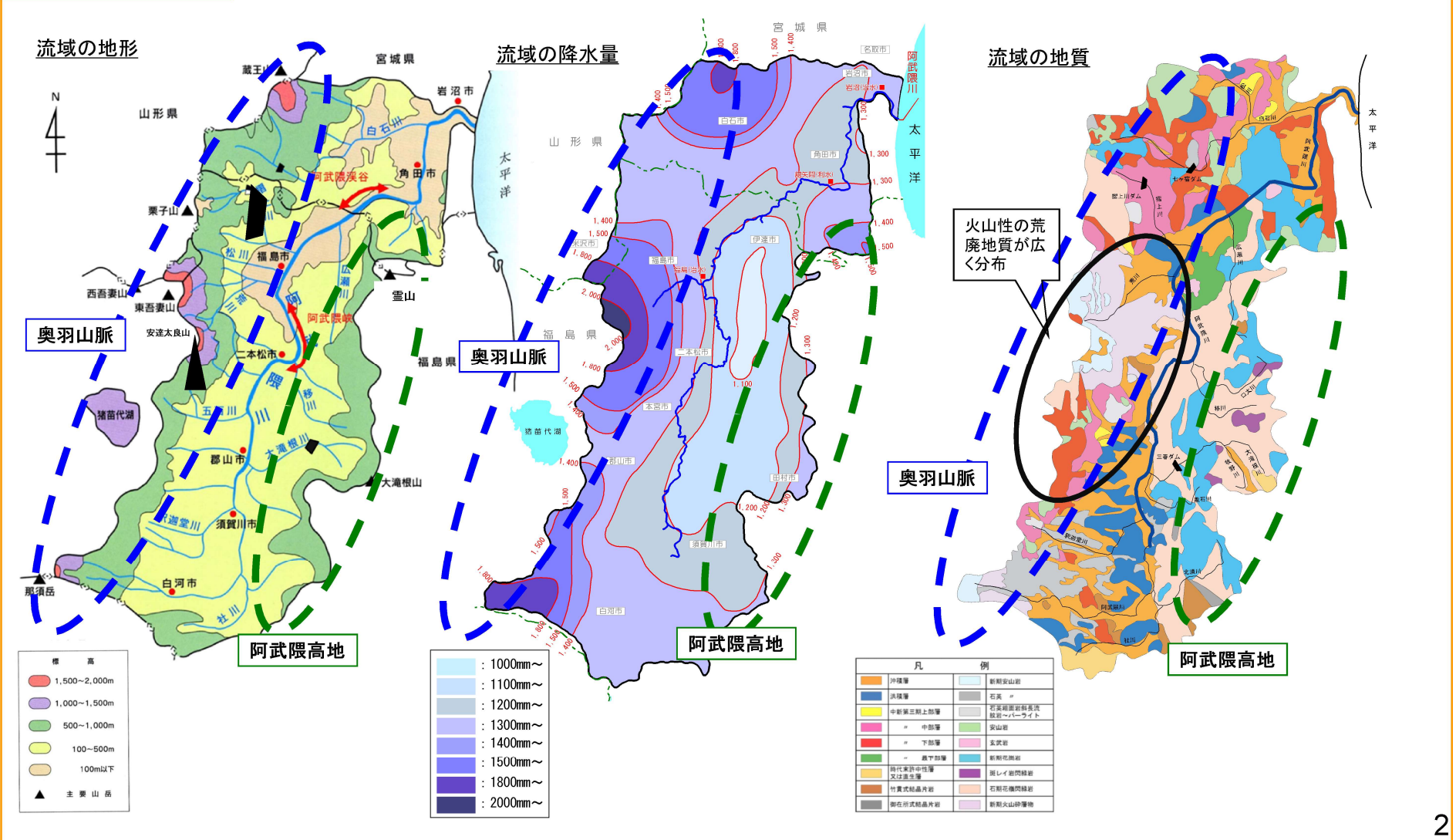
## 第1回河川基本技術会議より抜粋

- 阿武隈川の流域面積は5,400km<sup>2</sup>、幹川流路延長は239km。
- 福島県の旭岳を源とし、釈迦堂川、荒川、摺上川等の支川を合わせて、福島県中通り地方を北流し、宮城県に入りさらに白石川等の支川を合わせて太平洋に注ぐ。
- 阿武隈川は大小の盆地と狭窄部をくり返しながら流下。
- 流域内市町村は13市18町8村で流域内人口は約134万人、想定氾濫区域内人口は約58.3万人。



- 流域西側の奥羽山脈は標高2,000m級の山地からなり、年平均降水量も1,500～2,000mm程度と多雨な気候。一方、流域東側の阿武隈高地は標高1,000m以下と低く、降水量も1,300mm程度と少ない。
- 西側の奥羽山脈は急峻な地形で、吾妻山や安達太良山をはじめとする火山荒廃地を有する。また、降水量も多いため、急勾配の支川（荒川・松川等）は多量の土砂を流出し山麓地帯に扇状地を形成する。
- 東側の阿武隈高地は地形が比較的緩やかで、花崗岩質の丘陵からなり比較的緩勾配の支川が本川に合流する。

### 流域の地質・地形特性



- 阿武隈川は、盆地と狭窄部が交互に出現し、河床材料も砂礫や岩の露出など様々な様相を見せ、動植物もその環境に応じた形態を見せている。
- 河口から上流83km地点にある信夫ダムの直下まで天然アユやサクラマス・サケが遡上、特に中流部には、阿武隈川らしさを創出するアユの産卵場が存在。
- 上流部を中心とした工場排水・家庭排水等の影響で水質が悪化し、平成14年まで環境基準を超過。近年は改善傾向にあり、全区間で環境基準値 (BOD3mg/l) を満足。
- 東北地方太平洋沖地震に伴う地盤沈下と津波による侵食により、河口部周辺の地形が変化しており、現在もモニタリングを継続中。

### 上流部



オオムラサキ (準絶滅危惧)



ゼニタナゴ (絶滅危惧 I A)

上流部は、流れも緩やかで沿川には郡山市等の都市が形成。高水敷にはハリエンジュなどの帰化植物が多く侵入しているものの、オオムラサキの生息場となるエノキ等の樹林が小面積ながらも形成されている。水際にはタコノアシも確認、水域ではメダカやゼニタナゴ等の緩流域を好む種の生息が確認されている。

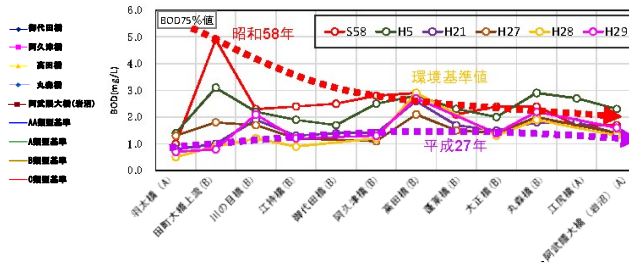
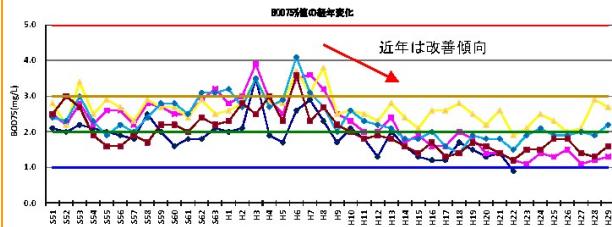
### 阿武隈峡



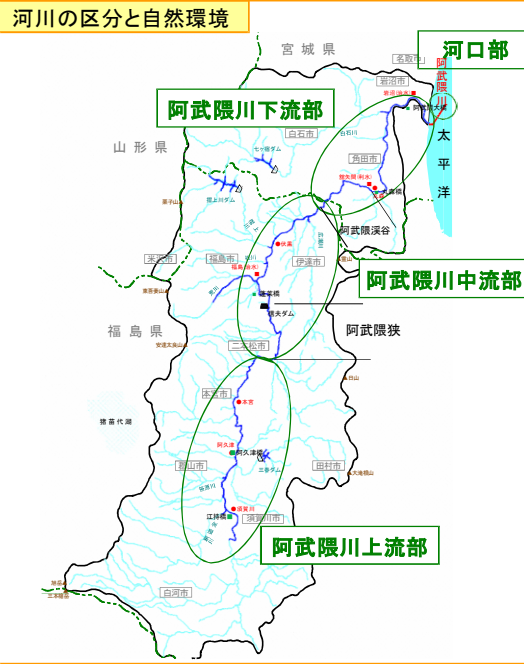
数多くの奇岩が点在し福島県指定名勝及び天然記念物となっている。信夫ダム上流部では放流したアユ等が生息している。

### 河川の水質

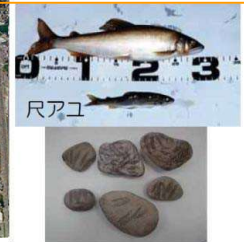
阿武隈川における水質は、上流部を中心とした工場排水・家庭排水などの影響で水質が悪化し環境基準の上限値であるBOD3mg/lを超えていたが、近年は、法規制や下水道整備等により徐々に改善されつつあり全川にわたって環境基準を満足している。



### 河川の区分と自然環境



### 中流部



中流部は、福島市街地が形成されており、川幅もやや広くなり、流れも緩やか。

河床礫に多く見られるアユのみ跡

阿武隈川を代表する天然のアユやサケ、サクラマスが、河口から83kmある信夫ダム直下まで遡上し、砂礫河床となっている早瀬付近はアユやサケの産卵場となっており、体長30cmを超える尺アユも確認。

### 下流部



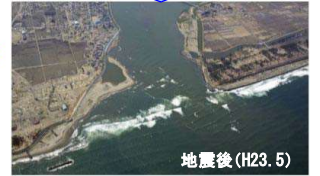
下流部は、周辺に角田市や岩沼市街地が形成され、河床勾配が緩く川幅も広い。

ミクリやタコノアシ、広い高水敷にはオギやヨシ等の群落が形成され、オオヨシキリやセッカ等の生息場となっている。

### 河口部



河口部の砂地には、コウボウムギ等の植物群落が見られるほか、カメ類の集団囀やシギ・チドリ類の休息地になっていた。

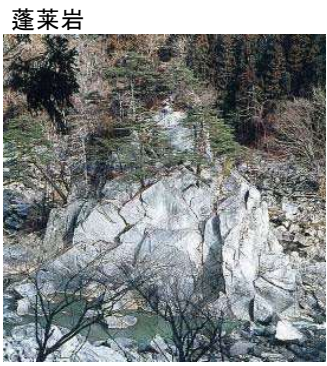


しかし、東北地方太平洋沖地震に伴う地盤沈下と津波による侵食等により、河口部周辺の砂州形状や河川環境が大きく変化している。

- 阿武隈川の河川空間は、釣りや散策、レクリエーションや花火大会など、水面や高水敷の利用が盛ん。
- 阿武隈渓谷や阿武隈峡などの狭窄部は、数多くの奇岩が点在する壮大な渓谷景観を形成しており、阿武隈渓谷では観光船下りが行われている。

### 阿武隈川の河川景観

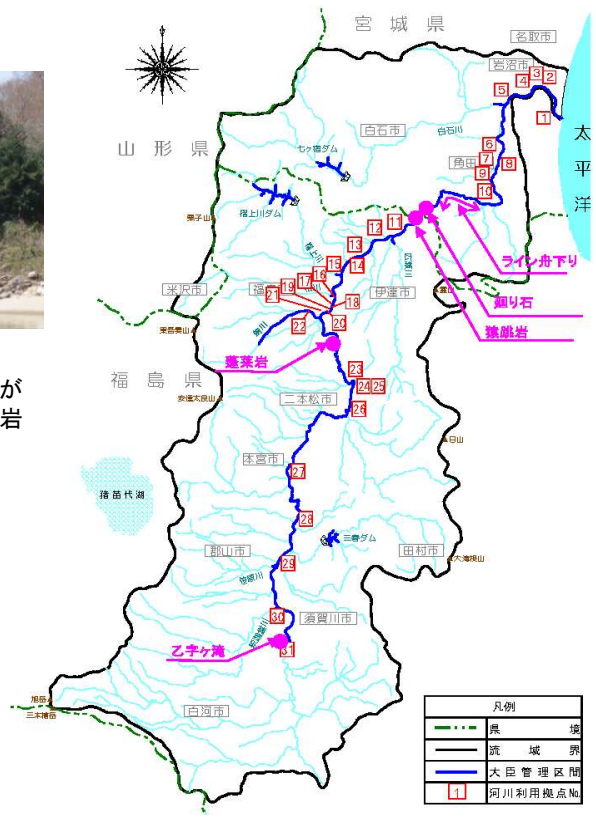
数多くの奇岩が点在する壮大な渓谷景観



阿武隈川の中に、奇岩が突き立っており、この岩の間に松が生え、鶯がからみつき、いかにも中国の蓬萊山の状景を見せている。



「日本の滝百選」に選ばれている。乙の字をなして激しい水しぶきをあげて流れ落ちることが名前の由来。水かさが増すと約100メートルの川幅一杯に落瀑して、小ナイアガラの感がある。松尾芭蕉も「五月雨の滝降りうづむ水嵩哉」という句を詠んでいる。



### 阿武隈川の河川利用拠点

市町村名	No.	名称	川の通信簿 評価結果(5段階)
亶理町	1	亶理船着場	
岩沼市	2	岩沼市河川公園	☆☆☆☆
岩沼市	3	岩沼船着場	—
岩沼市	4	あぶくま公園運動場	—
柴田町	5	柴田船着場	—
角田市	6	佐倉船着場	—
角田市	7	角田船着場	—
角田市	8	阿武隈川緑地	☆☆☆☆
角田市	9	小田川水文場外水路	☆☆☆☆
角田市	10	館矢間船着場	—
伊達市	11	白島の広場 水辺の小楽校	—
国見町	12	蛙の清流 水辺の小楽校	—
桑折町	13	桃源郷 水辺の小楽校	—
伊達市	14	結いの町 水辺の小楽校	—
福島市	15	楯上運動公園	—
福島市	16	下釜運動公園	—
福島市	17	信夫ヶ丘緑地公園	—
福島市	18	あぶくま親水公園	—
福島市	19	腰浜緑地	—
福島市	20	渡利水辺の楽校	☆☆☆
福島市	21	限群	☆☆☆
福島市	22	荒川桜つつみ公園	☆☆☆
福島市	23	天井滝 水辺の小楽校	—
福島市	24	阿武隈漕艇場	—
二本松市	25	みずすまし 水辺の小楽校	—
二本松市	26	稚児舞台 水辺の小楽校	—
本宮市	27	下の橋 水辺の小楽校	—
郡山市	28	富久山河川敷多目的広場	—
郡山市	29	野島の森 水辺の小楽校	☆☆
磐前川市	30	釈迦堂川 水辺の小楽校	—
玉川村	31	乙字ヶ滝 水辺の小楽校	—



丸森は古くから阿武隈川の舟運で栄え、その名残りを伝えている。両岸は県立自然公園となっていて、阿武隈渓谷の壮大な景観を形成している。